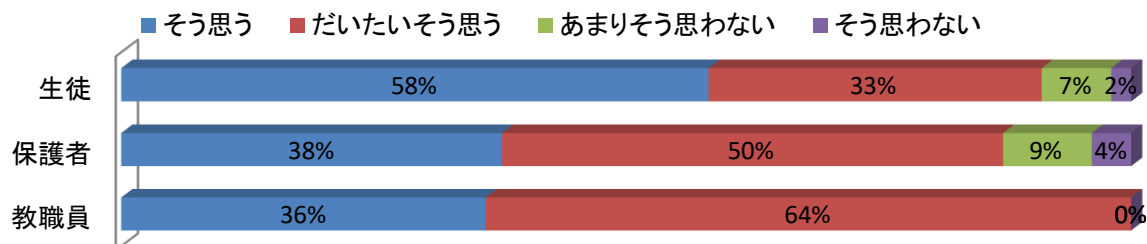


令和元年度 学校評価 結果と考察

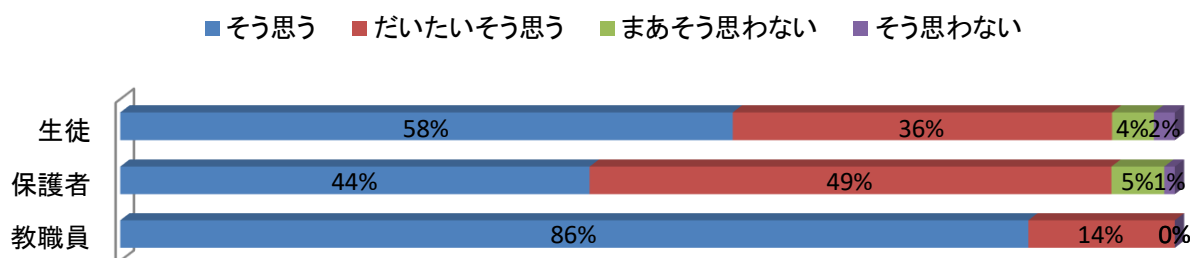
1 学校生活は楽しい



1

生徒・保護者・教職員ともに、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると80%を超えており、生徒は全体的に充実した学校生活を送っていることが分かる。その反面で、「そう思わない」「あまりそう思わない」の回答が生徒・保護者に10%前後見られる点は気にかかる。教職員の認識とかけ離れていることも事実である。全体や個々に丁寧に対応していくことで、少しでも不安が解消され、生徒一人一人が「楽しい」と実感する学校を目指す。

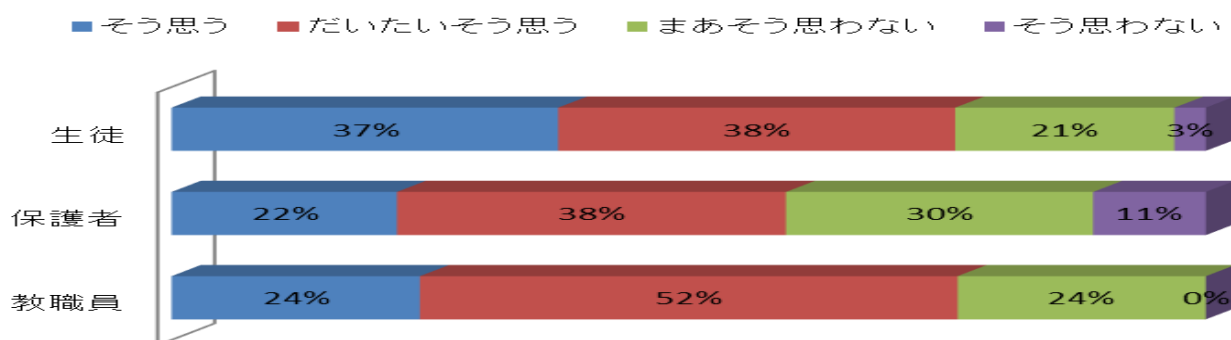
2 学校の様子为学校からのたよりなどでわかる



2

この結果は、生徒・保護者・教職員で「達成率」の数値が質問の中で最も高かった項目である。特に、教職員の「そう思う」86%は非常に高い。毎日のホームページの更新や、各種たよりの発行が保護者にも十分浸透していることが分かる。学校の教育活動の様子や様々な情報を積極的に家庭や地域に発信することにより、「開かれた学校」の一助にもなっている。

3 以前より家庭学習を行っている

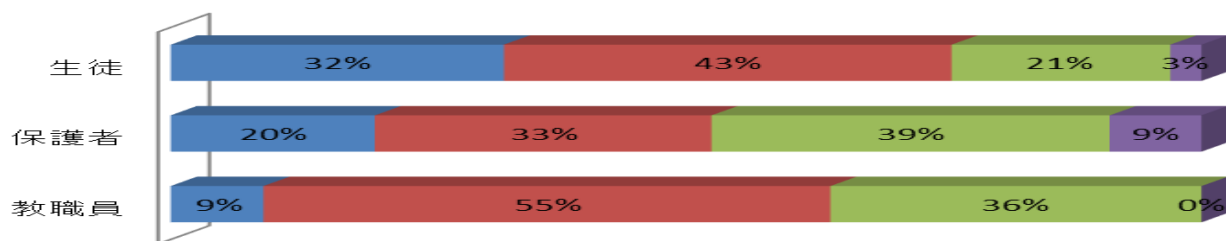


3

この項目結果が、本校の大きな課題の一つである。例えば「達成率」、保護者の回答は、昨年度が72%であったが、今年度は更に下落し68%である。生徒の回答も80%から77%に下がっている。原因の一つは、スマホをはじめとするSNSの使用状況である。昨年末の情報リテラシー集会を開催したり、本県の「学びの甲斐善八か条」等も活用したりと、家庭学習の定着につなげたい。

4 将来の夢や希望があり、その夢や希望に向かって努力している

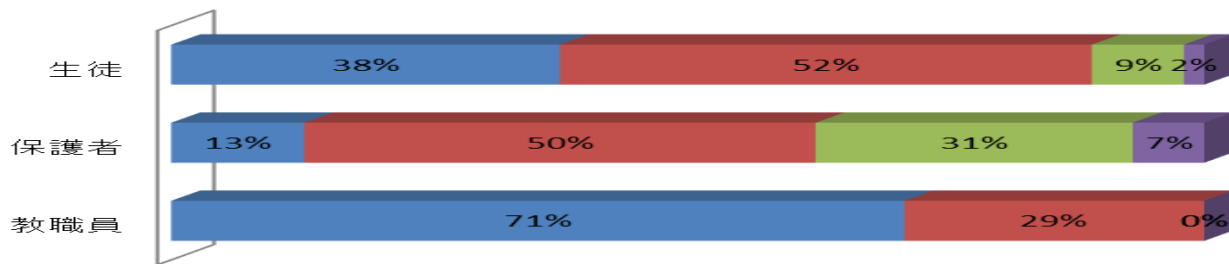
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない



4
項目3に続き、この結果も課題である。全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果でも、国や県全体の課題として挙げられている。生徒や保護者の記述欄にも「特に将来の希望なし」「将来に向けて努力しているとは思えない」などの回答があった。キャリアパスポートや職業体験等を通じて、生徒が少しでも将来に展望をもてるようにする。また、そのような社会になることを願う。

5 授業は分かりやすい

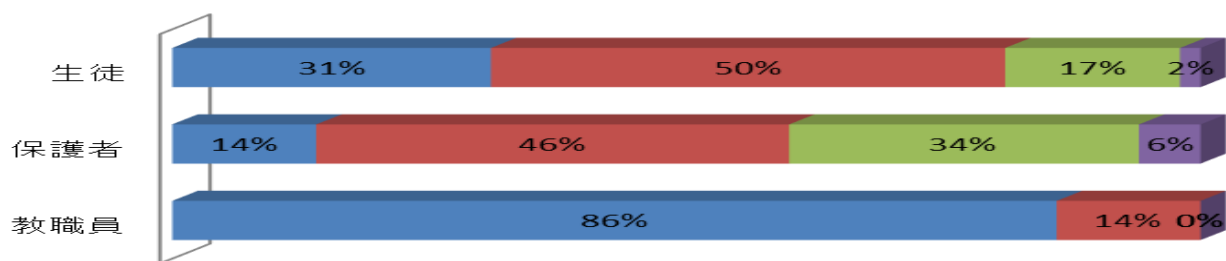
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない



5
達成率が、教職員は93%、生徒は80%、保護者は67%となった。生徒と保護者の差が大きい要因は、生徒の定期テストや到達度テストの結果が期待したほど伸びていない、また生徒が話す内容や生徒があまり学校での様子を話さない等の理由から、そのように判断したと考えられる。いずれにしても、38%という保護者の否定的な回答の改善策を引き続き探っていく。

6 相手の話を聞き、自分なりの考えを発表する授業が多くなった

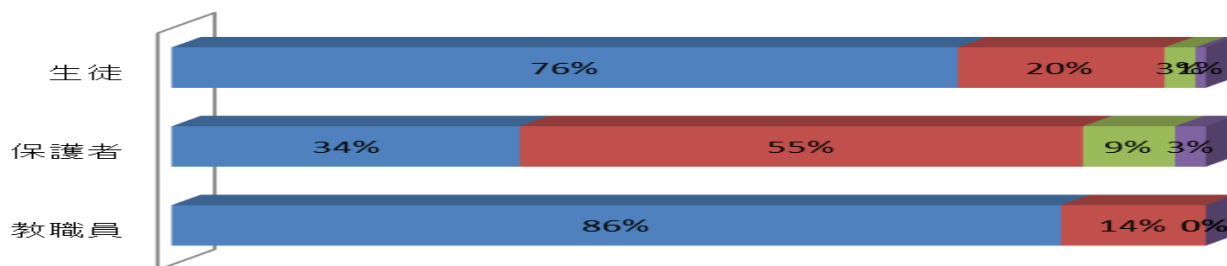
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない



6
項目5と同様の結果となっている。教職員は授業改善を意識・実践している（達成率は、昨年度と比較すると84%から90%と、6%も伸びている）。それが、生徒や保護者に伝わりきらない面が課題である。それでも保護者の回答は昨年度から2%改善されている。こうした授業がテストの結果に反映されることで、達成率も上昇すると判断する。

7 思いやりや命の大切さを学んでいる

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない

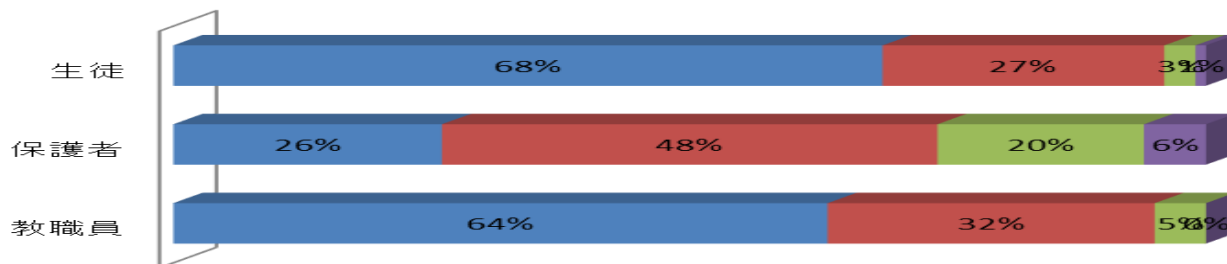


7

教職員の達成率は、昨年度の86%から今年度は97%と、10ポイント上がった。生徒も93%保護者も80%の高い達成率を示している。これは教科となった道徳科において、教師が授業改善を意識したり、特活等における平和学習など日頃の教育活動に積極的に取り入れたりしている結果だと考える。今後も継続していく。

8 ICTを活用した授業は分かりやすい

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない

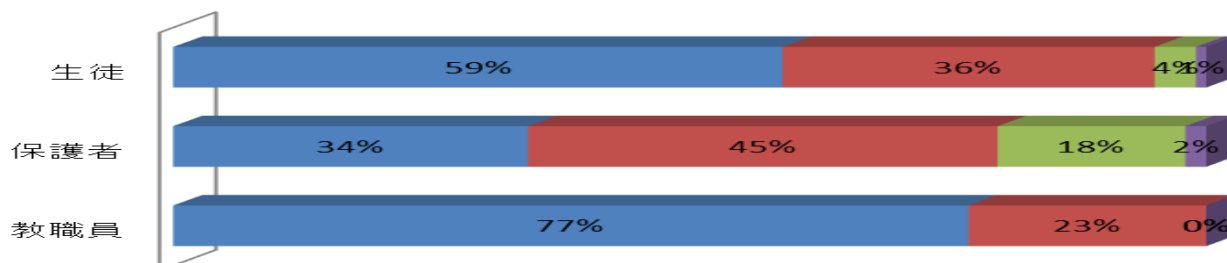


8

重点項目として取り組んだ結果として、昨年度と比べて生徒・保護者・教職員すべてにおいてポイントが上昇した項目である。特に教職員の+13ポイントは注目すべき点である。本校の大きな特色であり強みであることから、今後も一層の質の向上が期待できる。課題としては、この結果を生徒の学習の定着にいかにつなげるかであり、それが保護者からの評価を更に上げることにもなる。

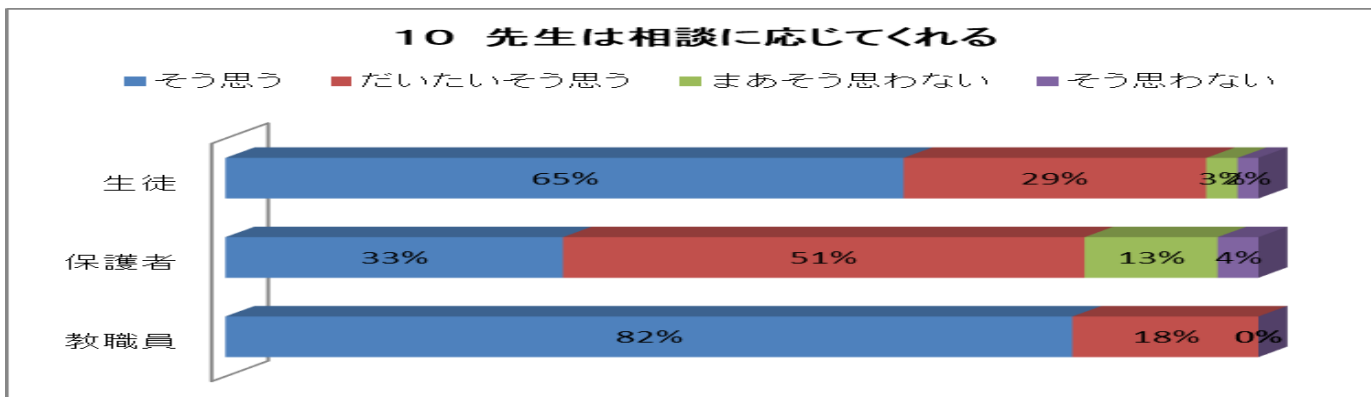
9 あいさつをしている

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ まあそう思わない ■ そう思わない



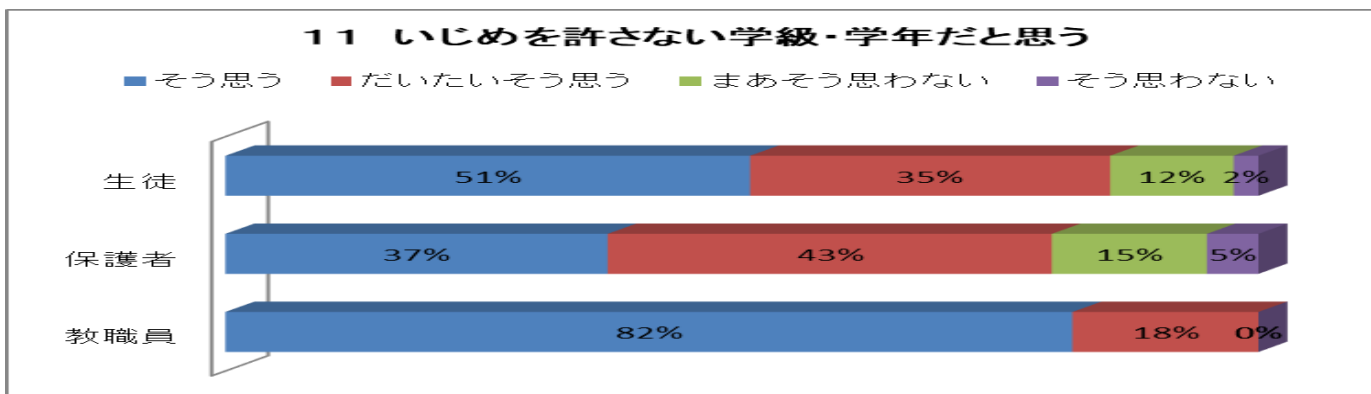
9

あいさつ運動やキャンペーンなどを通して、日常的に全体で取り組んでいる項目であるが、教職員と生徒・保護者の意識の差が大きい。達成率を昨年度比で見ると、生徒は-3%（91→88）で、保護者は-4%（82→78）である。学校での様子は、あいさつ取組期間ではさかんにするものの、それ以外の時はやや消極的傾向にある。また保護者の回答については家庭での様子も反映されていると考える。「あいさつ」の意義を実感する指導を進めていく。



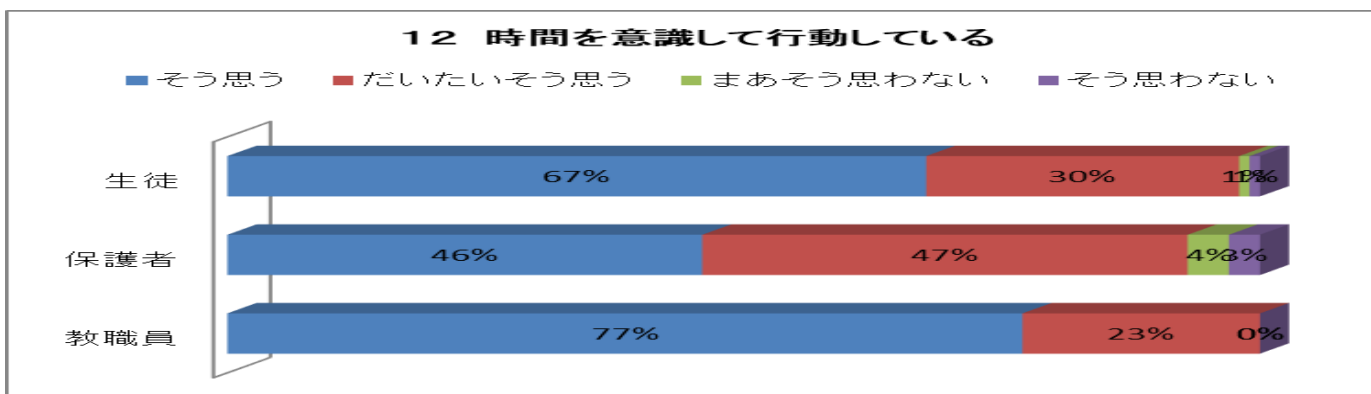
10

昨年度比では、生徒の回答が上昇している（81%→84%）。また教職員の達成率は高い数値が更に上がっている（88%→95%）。日頃から、丁寧な生徒理解に努め誠実に対応していることの結果であると考えます。保護者については、否定的な回答が17%となっている。これまで様々なトラブルがあり、その結果が思うようにいかないことが数値に現れている。地道に取り組んでいく。



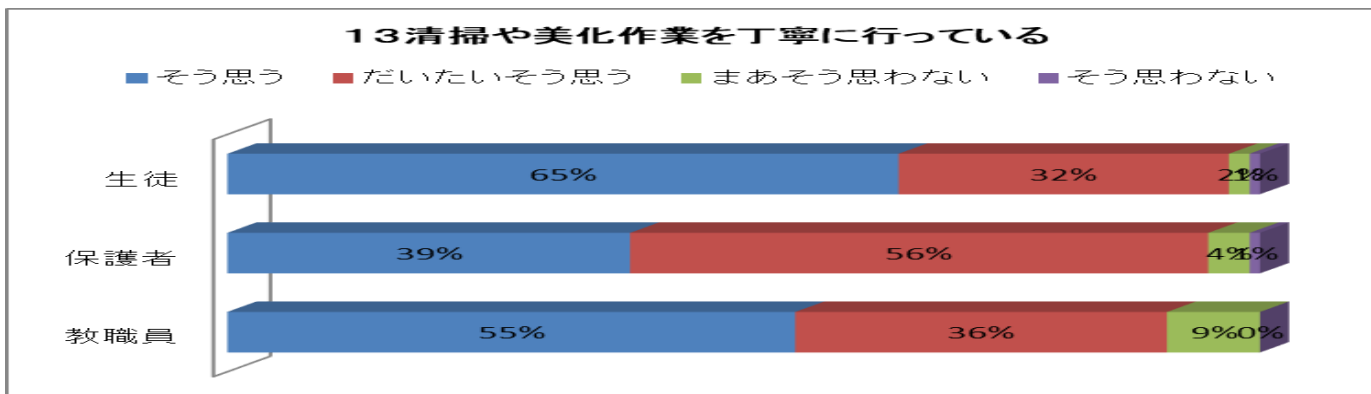
11

この項目も10と同様の傾向にあり、特に生徒・教職員の達成率の数値が上がっている。生徒指導主事を中心として、迅速かつ組織的に取り組んでいることが大きい。トラブルやすれ違いが原因であるものも含めて、一つ一つ解消に向け対応する体制ができている。保護者は、3年の回答が昨年度と比較すると上昇している。今後も「いじめ」に関しては、毅然とした姿勢で対応していく。



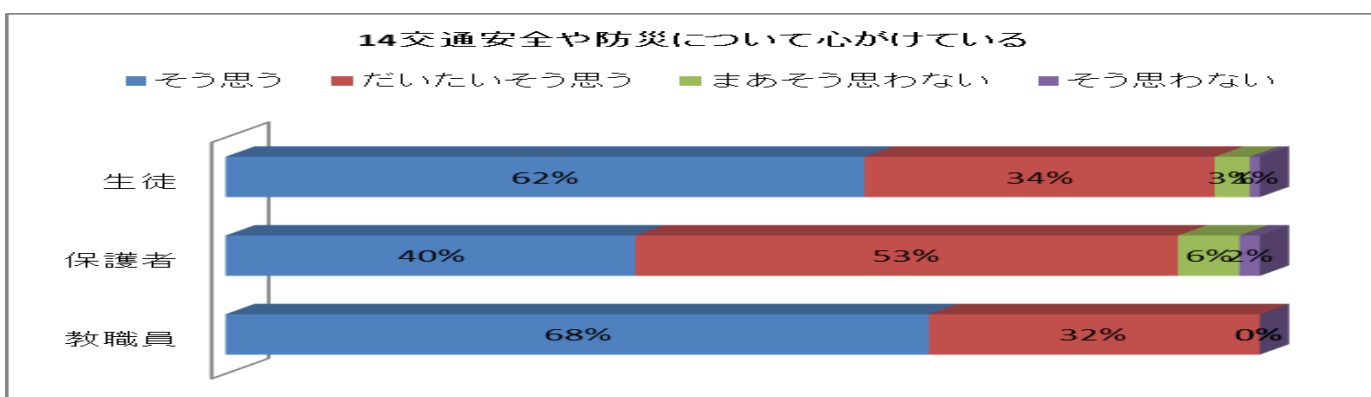
12

すべての中で、達成率が最も高かった項目である（生徒91%、保護者84%、教職員94%）。また、昨年度との比較では特に教職員の回答が14ポイントも上がっている。「都留一中生4つの規範」「凡事徹底」を意識して重点的に取り組んでいる結果である。「あいさつ」と同様に、社会に出ても重要な要素であるため、本校の特色の一つとして今後もしっかりと定着させていく。



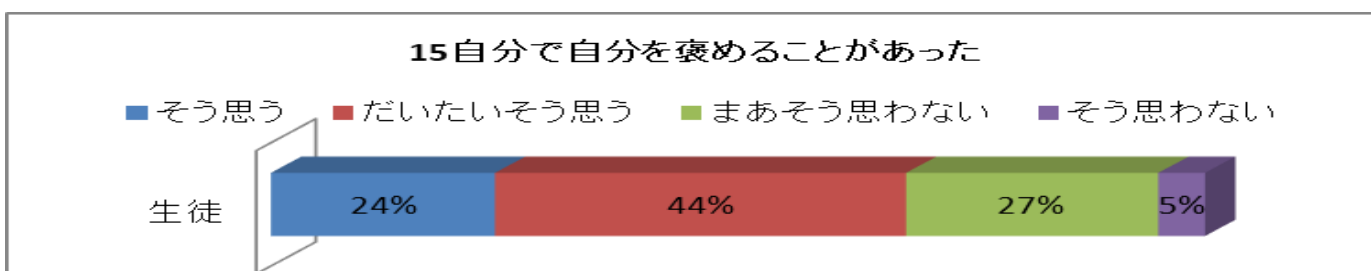
13

教職員の回答・達成率は他の項目に比べると低い傾向にあり、生徒や保護者の回答と比較しても、否定的な回答が多い。これは、日頃の生徒の実態を見て判断した結果であると考えられる。学校での様子は、とても熱心に取り組む生徒が多い中で、消極的であまり丁寧に取り組んでいない生徒がいることも事実である。この状況の改善に努めていく。



14

緊急地震速報を活用した予告なしの避難訓練、避難訓練後の集団下校、台風（強風や大雨）への備え、更には大雪への対応など、本校の防災への体制・意識は非常に高い。また、自転車通学生徒への指導をはじめとする交通安全対策にも、日頃から継続的に取り組んでいる。その結果として、高い数値の回答が生徒・保護者・教職員のいずれにも見られる。学校安全や危機管理の意識を、生徒も教職員ももち続け、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを今後も学校として伝えていく。



15

この項目は、4の「将来への夢や希望…」と同様に達成率が低く、「そう思わない」は全15項目で最も低い数値である。背景として、生徒は謙遜してあまり自己主張をしない、目標や理想が高い、自己肯定感が低い、学校がそのように実感できる成功体験を増やす、などの原因が考えられる。いずれにしても、今後細かく分析したり生徒から直接聞いたたりして、改善につながる要素となる手だてを探っていく。

- ※ 回答の回収状況は、不登校やその他の理由により、100%に満たないものもある。
- ※ 回答の中には、一部の項目において判断が難しいため、無回答のものがある。
- ※ 昨年度と今年度では、生徒・保護者・教職員それぞれ人員が異なるので、比較は参考値である。

学校評価の総括

○成果

- ・全体の傾向として、
充実した生活を送っている生徒が多く、保護者からも一定の評価を得ている。また、教職員もこれまでの取り組みに手応えを感じている。
今年度、学校の指導重点項目や改善するべく取り組んできたことが、達成率において数値として現れている（ICT, 道徳科, 時間, 学校の情報を発信など）。
- ・達成率から
生徒：達成率80%以上が、15項目中11項目。
最高値 7「思いやりや命の大切さを学んでいる」93%
保護者：達成率80%以上が、14項目中6項目。
最高値 2「学校の様子が…分かる」84%
12「時間を意識して行動…」84%
教職員：達成率80%以上が、14項目中12項目。
最高値 2「学校の様子が…分かる」97%
7「思いやりや命の大切さを学んでいる」97%

●課題

- ・全体の傾向として、
保護者の回答結果は、生徒の声を反映するものも多い。特に授業や学習、将来への不安などについて、数値として現れている。
教師側の思いや意図と生徒・保護者の考えが、必ずしも一致していないものもある。その差を少しでも解消する方策や手だてを考え実行することが、これまで以上に生徒が充実した学校生活を送るための目標にもなり得る。
- ・達成率から
生徒：達成度80%未満が、15項目中4項目。
最低値 15「自分で自分を褒めることがあった」72%
保護者：達成度80%未満が、14項目中8項目。
最低値 4「将来の夢や希望があり…」66%
教職員：達成度80%未満が、14項目中2項目。
最低値 4「将来の夢や希望があり…」68%

※来年度に向けて

課題となっている「授業・家庭学習への意欲と習慣づけ」「将来への夢や希望を抱くための方策」「生徒に自己肯定感や自信を持たせるための手だて」について、校内研究会や学習会、様々な取組を通して意図的に仕掛けていく。

ある面では、これらには共通点がある。「意欲や目的をもって学習する → 新しい発見をする → 学ぶことが楽しいと実感する → 分かると達成感が得られる」ことにつながる。つまり、学校の最も根本的な目的である「生徒に学力をつけさせること」、そのための様々な方法や戦略を考えていく。

おわりに

今年度、本校で実施してきた教育活動について、成果と課題を検証して改善策を検討し、結果を公表・報告する。そして次年度以降の教育活動に活かす、という学校評価の趣旨を踏まえて、成果は更に強化して進化させ、本校の強み・特色・魅力としていく。また、課題については全教職員で改善のために努力し、生徒がより良い学校生活を送ることを目指して日々の活動に取り組んでいく。

これからも学校評価の結果を真摯に受け止め活用し、充実した学校生活と生徒の望ましい成長、また保護者や地域からも安心・信頼される学校を目指して取り組んでいく。